『ONE BOOK ONE LIFE』別冊号1986年9月10日第1号発行

ろくおん通信

No. 131

発行日　2003年7月15日
発　行　盲人情報文化センター
録音製作係

聴覚で理解できる録音図書を作るために

久保　洋子

活字で提供された原本を録音図書にするにはいろいろな問題点があります。
その内のいくつかを、上げて、考えてみたいと思います。

1．漢字

①同音異義語

「育児は育自」「科学は仮学」などのように同音異義語が続けて出て来た時には何らかの補足が必要だと言うことは誰でも気がつきます。
補足が必要なのはこんな時ばかりではありません。「私がソウソウした」と言っても想像か創造か判断できない場合もあります。「シ」というタイトルは「詩」か「死」か「四」かわかりません。
このように漢字を見れば何の疑問もないものでも読むとどの言葉かわからなくなるものはたくさんあります。このような時には補足が必要です。
　但し、前後の文章から迷わずに理解できるものには補足の必要はありません。

②造語

　漢字には一字一字特定の意味があります。従っていくつかの漢字を組み合わせて熟語をつくっても字をみている人にはすぐにわかります。でも読んでしまうと辞書にもない言葉だけにわからなくなってしまいます。

③漢字そのものが問題になっている時

「キントンは金団と書きます」

「鐘銘の『国家安康』の字句は家康の名を分断しているとまるで子供だましのような言いがかりをつたけのである」

このような時には、文意がきちんと伝わるような補足が必要です。

④漢字の補足の仕方

補足は文意にそってすることが大切です。文意からはなれた補足ではたとえ使われている漢字が特定出来ても思考はあちこち飛んでしまって、本文を理解して読みすすむことが困難になってしまいます。同音異義語では意味を言いそえた方がいい時もあります。

⑤難しい言葉に補足をいれるのではありません。難しい言葉といっても個人差があります。

ある人にははじめての言葉でも別の人にはいつも使っている言葉だったりします。音声訳の世界では基準は広辞苑、大辞林クラスの国語辞典ということになっています。これらの辞典にあってまぎらわい同音異義語がなければ自分の知らない言葉でも補足は不要です。

つづく

読み方についてのQ&A

Q 淡々と読むのが「音訳」で、小説で会話など調子をつけて読むと音訳ではないと言われますが・・・・？

A 音声訳の基本は活字情報を耳で聴く利用者により正確に音声にして伝えることです。

資料をより正確に伝えるには、本の種類にもよりますが、より音声表現が求められるものもたくさんあります。淡々読みが音訳ということではありません。

音声表現の技術は音訳者の誰もが同じレベルに達するものではないでしょう。一人

一人レベルは違ってきます。自分の技術にあった種類の音訳を手がける必要があります。小説、入門書、古典、英語関係などいろいろな分野の中で得意な分野の音訳をてがけることが大切です。

一定のレベルに達してない人が無理（？）して小説などを読むと、間違った音声表現（違和感のある表現）で文意が正しく伝わらないことは多々あります。

自分の音訳が聞き手に違和感なく、より正確に伝わるかは自分の音訳したものを、第三者に聴いてもらい、感想を聞くことも大切です。第三者の意見を率直に聴くことが音訳者としての技術の向上にもつながると思います。

第10回　録音図書製作グループ音訳研究会のご報告とお願い！

７月１６日（水）に行われた川上正信氏講演の「第10回録音図書製作グループ音訳研究会」は「ボランティアセミナー」との共催で行われましたが、先着順の為に、かなりの方にお断りするなどご迷惑をお掛けしてしまい申し訳ありませんでした。当日は、２３館、３２グループ、１２０名の参加がありました。

「録音図書の質的向上をもとめて」と題しての講演でしたが、川上氏が冒頭に「音訳ボランティアの方より、職員に聴いて欲しい」と言われていましたが、まさに、聴いてわかる録音図書をつくるにはどうしたらいいのか、どのような音訳講習会が必要なのか、いろいろと職員として研究していかなければならいことを提起されたと思います。

当日、テープをとられた方へのお願い！

当日、参加者の中に録音をされていた方がありました。講演の最初にお断りすべきでしたが、録音したテープはグループ内での勉強会も含め利用をお断りしています。いろんな方のテープを流していますので、講演者からもテープにとって利用することは断られていましたので、よろしくお願い致します。

当日の内容につきましては、ただ今、墨字に起こしております。できあがったらお知らせします。

※　次回の「グループ音訳研究会」の日程と内容については決まり次第お知ら

２００３年度
録音図書製作講習会のご案内

盲人情報文化センターでは、当センターの音声訳ボランティアを養成する為に、「録音図書製作講習会」（全１５回）を実施します。
この講習会の受講資格は、発声、アクセント、腹式呼吸など基礎的な訓練を終了した方が対象です。
この「講習会」では選考試験に合格された方に対して、録音図書を製作するのに必要な技術（録音技術、調査、処理など）を講習します。
この「講習会」の受講希望者は、申込用紙に必要事項を記入の上、盲人情報文化センター録音製作係までお送り下さい。
尚、定員の関係で選考試験をさせて頂きます。選考試験当日、来館出来ない方は、録音製作係までお申し出ください。

＊担当　盲人情報文化センター　録音製作係
電話　０６－６４４１－００１５
Fax　０６－６４４１－００３９

録音図書製作講習会実施要項

実施時期:　２００３年１０月１５日（水）
～２００４年４月２１日（水）
※毎月第１、第３水曜日　　１５回予定
ただし、2004年１月のみ第２，第４水曜日
2004年３月は第５水曜日もあり
１０：００～１２：００

講習内容:　１．録音技術、読み
２．漢字、図、表などの音声変換処理
３．録音の順序など

費　用　:　無料

定　員　:　１０名程度

〆切日　:　２００３年１０月４日（土）

試験日　:　２００３年１０月８日（水）
盲人情報文化センター　９階　１０時～１２時

試験内容:　①アナウンステスト
②漢字
③面接
※筆記用具持参のこと　　鉛筆、消しゴム

発　表　:　２００３年１０月１１日（土）までに連絡

「人力」は「じんりょく」か「じんりき」か

「細工に落ちると云うが、僕のやる事は自然の手順が狂わない様にあらかじめ人力で装置するだけだ。自然に背いた没分暁の事を企てるのとは質が違う。細工だって構わん。細工が悪いのではない。悪い細工が悪いのだ」

（夏目漱石『三四郎』CD-ROM版新潮文庫）

あはれなる百日紅の下かげに人力車ひとつ見えにけるかな　（斎藤茂吉）

「人力」について、辞書の多くは「じんりょく」「じんりき」の両方を主見だし語として掲げ、意味としては、「人間の力」「人の能力」など、ほぼ同じように説明しています。

しかし用例としては「じんりょく」の項は「人力及ばず(人力の及ばぬところ)」というような例を示し、「じんりき」の項では揃って「人力車」の例を示しています。こうした「人力～」という複合語については、「人力車」のように「じんりき～」と読む慣用が特に強い場合を除いて、放送では「じんりょく～」と読んでいます。例として「人力飛行機」というときは、「じんりょくひこうき」と読みます。

ちなみに「物忘れ・イズ・ビューティフル」と唱えた赤瀬川原平さんの著書『老人力』は「ろうじんりょく」と読むそうです。　（豊）

「ゆく」「いく」の違い

……尤も、馬は二人とも、前のは月毛、後のは鹿毛の三才駒で、道をゆく物売りや侍も、振向いて見る程の駿足である。その後から又二人、馬の歩みに遅れまいとして隋いて行くのは、調度掛と舎人とに相違ない。――これが、利仁と五位との一行である事は、わざわざ、ここに断るまでもない話であろう。

（芥川龍之介「芋粥」／『羅生門・鼻』CD-ROM版新潮文庫）

司馬遼太郎『街道をゆく』は、なぜ『街道をいく』ではないのか、考えてみましょう。「ゆく」と「いく」の使い分けは、文体上の違いから説明できます。一般的に「ゆく」は文章語的ないし詩的な文脈で使われ、「いく」は口語的、日常的な文脈で使われます。

歴史的にみても、「ゆく」「いく」ともに万葉集にすでに用例がみられ、古くからのことばですが、どちらかと言うと、かつては「ゆく」のほうが標準的な言い方と見られていたようです。

例えば、「行きずり」「行きつ戻りつ」「行方」「行く末」「行く手」「行く年」など、やや古風な言い回しの成句は、今でも「ゆき」「ゆく」としか言いません。ただし、現在だけに限れば、「いく」のほうが明らかに一般的です。「学校に行く」の場合、ほとんどの人は「いく」と言うのではないでしょうか。　（最）

「つかいこなせば豊かな日本語」より

利用者から製作依頼を受けている原本

『みなさんこれが敬語ですよ』萩野　貞樹著　<語学>
『月刊密教講座　第1巻　第2号』　木下　厚　編　<宗教>
『イチローのメンタル』豊田　一成著　<スポーツ>

第2回
プライベート製作チーム勉強会のご案内

第1回の勉強会には、6グループ、19名の参加者がありました。この勉強会では盲人情報文化センターのプライベート製作に協力頂いていますグループの方を対象に、録音技術や処理の勉強などを行います。

利用者から依頼のあるプライベート製作はスピードが要求されます。希望される期間内に仕上げることが最も要求されます。蔵書製作とは違った製作体勢が必要です。

こうした利用者からの依頼に応えられるように、プライベート製作チームの勉強会は、今後2ヶ月に1回程度の勉強会を継続していくことになりました。

次回の内容は以下の通りです。

日　時：　2003年8月27日（水）
　　13：30～15：30
場　所：　盲人情報文化センター　9階
テーマ：　①後追い録音、訂正の仕方
　　②録音の順序
　　③ノートパソコンを使った録音（デモ）

※　参加者は清水・盤井までご連絡ください。